

1. 遺跡名 高田南原遺跡
(たかたみなみはら)

2. 所在地 小田原市高田字南原

3. 時代 弥生時代・奈良時代・平安時代

4. 調査概要

都市計画道路「穴部・国府津線」街路事業に伴う発掘調査で、2005年3月から8月まで実施しました。

調査地点は、JR東海道線の鴨宮駅北東部1.5kmの地点にあたり、小田原市東部に流れる森戸川の右岸に広がる低地上の遺跡です。周辺には中里遺跡や千代遺跡・三ッ俣遺跡など著名な遺跡が多数所在します。

発掘調査では、弥生時代～古墳時代前期の溝などが発見されました。その中の一つ東西に走る幅1.5mの溝からは杭や板などの木製品が多量に出土しています。溝や木製品などの具体的な機能は現在のところ明かではありませんが、治水や堰に関する施設である可能性が考えられます。その他の遺物として、土師器や須恵器・弥生土器などの破片、銅鏡・銅釧などが出土しました。

発掘期間中、[7月23日\(土\)に現地見学会](#)、[9月3日\(土\)に現地出土品展示会](#)を開催しました。



遺跡の位置



溝・木製品出土状況



杭出土状況



銅釧出土状況